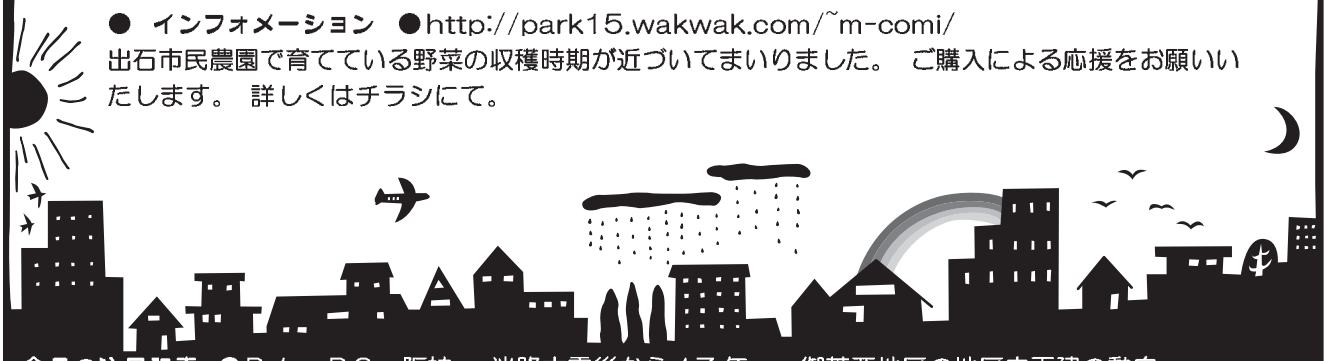
月刊 まち・コミ 2012年5・6月号

● インフォメーション ●http://park15.wakwak.com/~m-comi/
出石市民農園で育てている野菜の収穫時期が近づいてまいりました。 ご購入による応援をお願いいたします。 詳しくはチラシにて。



今月の注目記事 ●P１～P３　阪神・淡路大震災から１７年　～御菅西地区の地区内再建の動向～

阪神・淡路大震災から１７年
～御菅西地区の地区内再建の動向～

津波で大きな被害を受けた東日本大震災の被災地。

宮城の新聞社、河北新報社が宮城県沿岸１２市町の被災者に実施したアンケート調査の結果によると、自宅再建や移転先として、被災前の自治体を希望する被災者は５０．９％（震災前の居住地に戻りたい１５．７％含む）となっています。（河北新報２０１２年３月１０日）安全を重視しながら地元に戻りたい人がいます。

そこで今号では、１７年前の阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた地区において、従前居住者が元の地区で再建する過程を、御菅西地区（神戸市長田区御蔵通５・６丁目、以下御蔵地区）を事例に報告します。

▲1995年2月18日の御菅西地区

▲現在の御菅西地区

●御蔵地区の概況

震災前の御蔵地区は、町工場や多くの木造長屋が存在し、職住近接で暮らす、いわゆる下町であった。震災直後の火災で地区の８割が焼失し、約３００ 世帯の内７割は、その日から住む場所働く場所を失った。離散した住民が皆で話し合う場も持てないまま、1995 年3 月17 日に復興土地区画整理事業地区に指定された。

●復興課題

震災直後の御蔵地区における復興の課題は「まちに人を戻すこと」だった。全国から集まったボランティアの多くが郊外仮設住宅の支援に向かう中「まちの再生なくしては、復興はありえない」という視点の元、東京から来たボランティア２名と地元企業社長が、1996 年4 月にまち・コミュニケーション(以下まち・コミ) を創設し、スタッフが常駐する体制を作ることで、御蔵通5・6　丁目町づくり協議会（以下協議会）の事務局的役割を担った。

御蔵地区では当初から、避難所や仮設住宅で暮らす人々が少しの間でもまちに戻って集える場をつくろうと、盆踊りや餅つき、慰霊法要といった各種イベントを開催している。まち・コミはこのようなイベント等も、汗を流して支援することで、徐々に住民との信頼関係を築いていった。

●共同再建という方法

しかしながら協議会およびまち・コミは、一度地域外に出てしまった人が戻ることの難しさを徐々に知ることになる。このような課題に対応するため、協議会は大学教授でもある建築家に共同住宅再建案を提示してもらい、何度も勉強会を開いた。まち・コミは、建築や法律の専門家と、協議会の間を取り持った。またアンケートの資料などを元にして権利関係等を整理するのと並行して、社会学の大学研究室との連携で５０ 軒近くの意向の聞き取り調査を実施

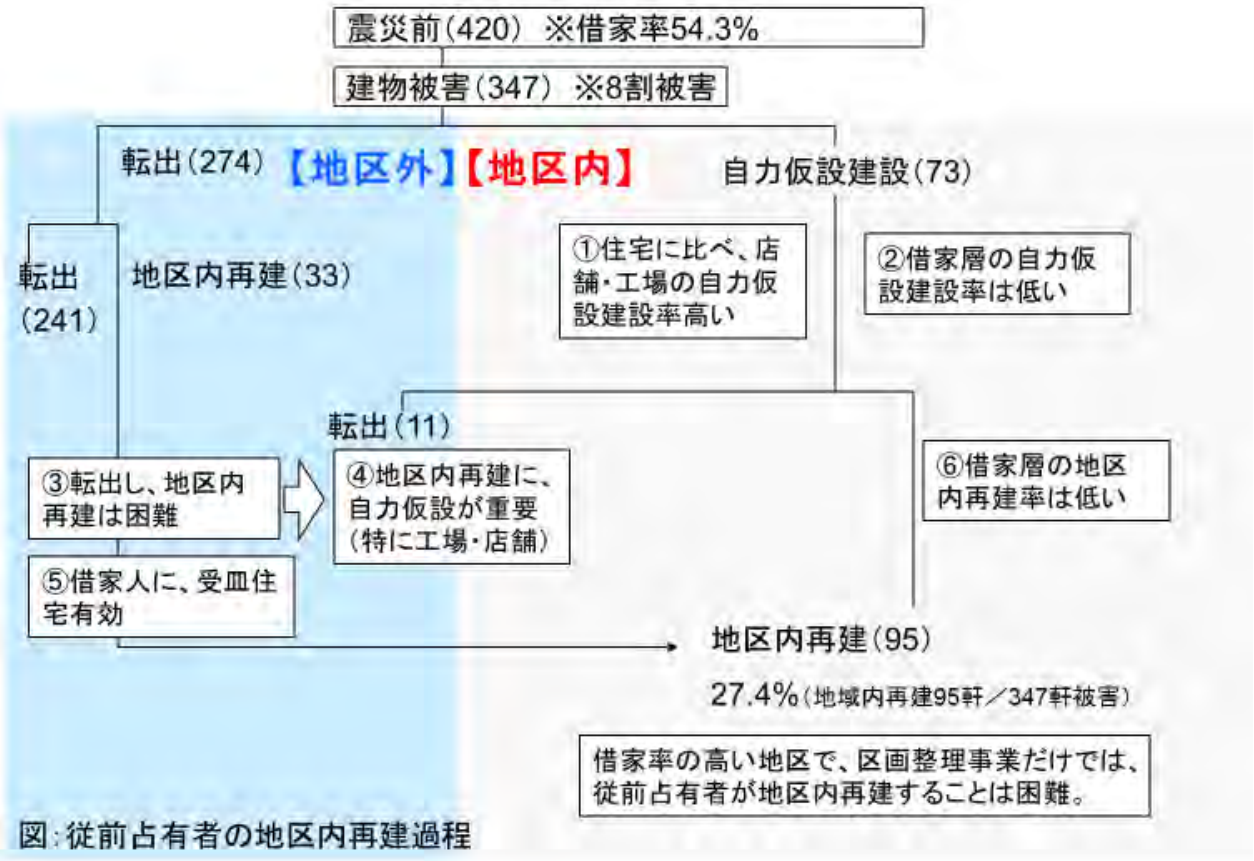


図:従前占有者の地区内再建過程

し、共同再建の現実化を模索した。残念ながら時間が経過するにつれ計画は徐々に縮小したが、12 軒の権利者からなる共同再建住宅「みくら5」が1999 年末に完成した。ボランティアがコーディネートを請け負った珍しい事例となった。コーディネーターの役割は権利者と設計者、工務店との調整等、建設工事に関することだけでなく、権利者にはご高齢の方が多かったため、住宅建設中の仮住居の確保や引っ越し等、生活再建そのものも支援した。

●地区内に市営住宅が完成

1999 年、地区内にはようやく95 戸の市営住宅が完成した。これは本来、震災前に御蔵地区で居住していた人々を優先的に入居させる性格をもつものであった。だが、完成するのが震災から4 年を経てからと非常に遅く、入居資格がある人でも、完成を知らない人が多かった。そこで協議会とまち・コミは連絡先を調査し、従前居住者が御蔵に建った市営住宅に入れるよう支援した。協議会とまち・コミは何とかして地域に人を戻そうと奮闘したが、結果的にこの市営住宅に入居することで御蔵地区に戻ってこられた住民は20 世帯しかいなかった。

▲共同再建住宅「みくら５」については、記録集「共働　共同建替事業の記録」に詳しく掲載しています。

●現在の状況

震災から17 年を経た現在、被害を受けた従前占有者は、27.4% が地区内再建した。（図：従前占有者の地区内再建過程）

被害後建築制限がかかったが、自らコンテナやプレハブ等の仮設建物を建設することができた。実際に建てた人が73 軒（1997 年10 月）あった。

その後、区画整理事業による仮換地が行われ、換地先へ建物を移転していった。移転の際に、11 軒が転出した。

自力仮設を建てずに転出した274 軒の内、33 軒が地区内再建をした。工場、店舗は皆無であり、住宅のみであった。商売をしている人は、取引先との関係や多額の引っ越し費用等、移動自体がリスクを負うことが主な原因である。

地区内に戻ってきた人の住居は、戸建てが3 軒で、自力仮設を建てていて移転時に併用が10 軒、残り20 軒は従前居住者用賃貸住宅（市営住宅）に入居した。従前居住者用賃貸住宅を希望した人は、震災当時は多かった。しかし、時間の流れの中で早く入居できる郊外の市営住宅との選択を迫られた。

転出した人に聞いたところ、住まい選択のポイントは時間である。時間が経つと、お年寄りは友人関係、子どものいる世帯は転校等がしにくくなり、その結果震災直後は地区内再建を望んでいても、再建しなかった。

地区内再建した人に聞くと、地域の復興計画の進捗状況の情報を常に手に入れられたことが、地区内再建できた要因として大きかった。実際、地区内で常に情報を手に入れられる自力仮設を建設した人が、地区内再建しているという傾向がみられた。

また借家層の再建率は、持ち家層と比べると20 倍ほど差が出ている。

【参考】

●まち・コミ執筆論文リスト

http://machicomi.blog42.fc2.com/blog-entry-931.html

●御菅西地区再建調査

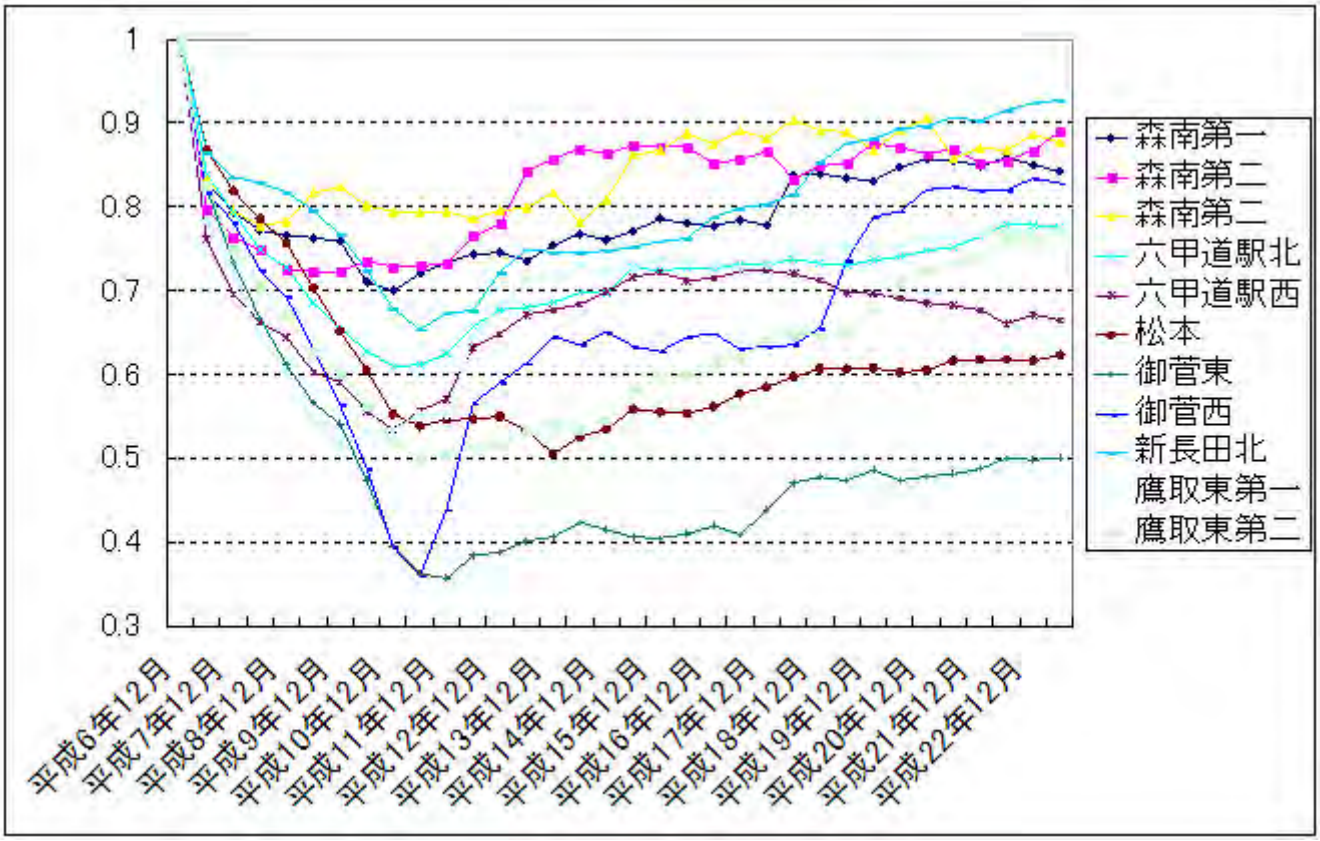
http://machicomi.blog42.fc2.com/blog-entry-594.html

●区画整理事業地区（神戸市内）の人口回復率

地区名	順位	回復率	人口(1996年12月)	人口(2011年6月31日)
森南第一	④	84.2%	1,825	1,537
森南第二	②	89.0%	1,758	1,565
森南第三	③	87.7%	891	781
六甲道駅北	⑥	77.6%	4,214	3,268
六甲道駅西	⑨	66.5%	1,164	774
松本	⑩	62.3%	2,371	1,478
御菅東	⑪	50.0%	1,317	659
御菅西	⑤	82.8%	647	536
新長田北	①	92.7%	7,558	7,010
鷹取東第一	⑦	77.3%	2,182	1,687
鷹取東第二	⑧	77.0%	4,334	3,336

全体的には９２．７％～５０．０％になっています。御菅西地区は５番目の回復率です。

●区画整理事業地区（神戸市内）の人口推移



※カラーのグラフが、ＷＥＢ 版月刊まち・コミでご覧いただけます。

http://machi-comi.homeip.net/m-comi/magazine/pdf/12-05.pdf

※各地区の概要については、神戸市ホームページの「震災復興土地区画整理事業」

http://www.city.kobe.lg.jp/information/project/urban/adjustment/index3.html

に各種資料がございますので、ご覧ください。

まち・コミnews

ここでもまち・コミ情報を発信しています

「月刊まち・ コミ」の他、以下の４つの方法での情報発信をしています。Ｅメール以外は活動報告やイベント情報をその都度発信しております。ぜひご覧ください。

●Ｅメール

不定期（現在は２カ月に１回程度）で、ニュースをお送りしています。現在届いていない方でご希望される方は、m-comi@bj.wakwak.com までその旨をご連絡ください。

●ブログ

「まち・コミブログ」 http://machicomi.blog42.fc2.com/

●ツイッター

・ツイッターの検索ボックスから「まち・コミュニケーション」で捜してください。
・http://twitter.com/machi_comi　でもご覧いただけます。

●フェイスブック

「まちコミ」でアカウントを作っていますので、フェイスブックページで検索してください。

大地のつぶやき

〜 東日本大震災を想う (Ⅶ) 〜

東日本への支援を続けているが、支援の内容が肉体労働からまちづくりに移っている。今年早々にわざわざまち・コミまでやって来て「神戸の経験を語って欲しい」と言われた。「地域性や災害の状況が全く違うので参考になる話ではなく不用意に発言出来ない」と答えたが「知恵を」と懇請される。まち・コミのモットーである現場を見る、現場で考える、現場で解決策を探し実行する。

半島部にある多くの漁村が大きな被害を受けている。殆どの家屋を流された所も多い。奇跡的にほんの数軒流され大半が残った漁村もある。津波の押し寄せ方が影響したのだろうか。漁村付近は高台を求めるとなると急峻な山が迫り、下手に山を削り台地をつくるとしてもあまり面積を取れない上にさらに急傾斜地が出来、かえって自然調和を乱し斜面崩壊の危機を生み出すことになる。今度津波が来たらと思うと高台移転と言うしかないが、絶対安全というのではなく、五m〜十mの高台でも逃げ場さえ確保するといいのではないか。低い小山を削って高台をつくれる場所を探すことに全力を尽くすことだろう。各漁村まとめて集団移転で内陸部の高台移転となると半島部の漁村にとって漁に不都合を来たし、生業から離れざるを得なくなる。農林水産の一次産業の就労は年齢に関係なく健康であればいつまでも仕事があるし、年齢に応じた仕事もある。高台というハード、逃げる工夫というソフトを組み合わせて考えれば、それほど高台に拘らなくても住んでいた漁村近くに戻れる場所は不可能ではないだろう。生業を生かせなくなるというのは、高齢者にとっては余計に病に近づくことになる。高齢化の進んだ漁村であっても漁をすることが漁師の生き甲斐でもある。前面に広く蒼い海、背後に勾配急な緑深い山、仰ぎ見ればどこまでも碧い空、目を足元に転ずれば肩を寄せ合って建つ素朴な家々。風光明媚は言うに及ばず、郷愁を深く覚えるこの三陸漁村の再生を願って止まない。

株式会社兵庫商会　田中保三

まち・コミ活動報告　3/1～4/30

3/3-13【東北復興支援】東北行き
3/8 【東北復興支援】気仙沼観光協会視察来訪
3/9 【研修受入】神戸大学ボランティア講座
3/10 専修大学卒業生来訪
3/10【講演】大阪市東成区講演会（アーバンプランニング）
3/14【震災学習】上越市立城西中
3/15【震災学習】東北ツアー勉強会
3/18【震災学習】下見受入
3/19【震災学習】下見受入
3/20【震災学習】観音寺お参り
3/22 まち・コミ打合せ
3/25【日台交流】麒麟の会
3/27-30 【日台交流】訪台「淡水木造和式建築の建て替え」シンポ
3/27【東北復興支援】台湾淡江大学学生、夏季休暇東北訪問事前打合せ
4/1-3【震災学習】東北被災地にて視察研修
4/6 【研修受入】JICA研修（市民活動センター神戸）
4/7 【出石市民農園】作業
4/10【震災学習】打合せ
4/12 まち・コミ運営委員会
4/13-5/7 【東北復興支援】雄勝行き
4/16【震災学習】香美市立大栃中
4/16【東北復興支援】河北新報高橋記者取材（震災の遺構保存について）
4/22【震災学習】下見受入
4/24【研修受入】東京都庁総務局 5/15の打合せ来訪
4/27【震災学習】金沢市立小将町中

ご支援、ありがとうございます。　1/1~4/30

●賛助会員(新規・継続)●
玉井清山(長野県)　青田良介(兵庫県)　橋本正樹(兵庫県)　荒木正昭(熊本県)　服部光晴(奈良県)
大島英司(東京都)　石崎勝伸(兵庫県)　森敏昭(兵庫県)　寺田孝(兵庫県)　熊谷博子(東京都)
室崎益輝(京都府)　西野淑美(東京都)　松山幸子(兵庫県)

●寄付●　金原雅彦(埼玉県)

●協力●社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都)　株式会社兵庫商会(兵庫県)　【順不同・敬称略】

新規賛助会員募集＆更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいています。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は１年更新とさせていただいています。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。)

会員特典

◆本誌「月刊まち・コミ」の送付。
◆まち・コミュニケーションに関する、Eメールでの情報送付、WEBの特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

■編集後記　震災体験学習の受け入れをしています。東日本大震災の状況を子どもたちも見ているからか、真剣さが増している気がします。(戸)

年会費
個人・法人　年間５０００円
学生　　年間３０００円
郵便振替口座番号
００９５０－３－４２７８８
口座名称
「まち・コミュニケーション事務局」

2012年6月1日発行
編集／発行　まち・コミュニケーション
定価　１００円
御蔵事務所　〒653-0014
神戸市長田区御蔵通5-5
TEL　078-578-1100／FAX　078-576-7961
東京事務所　〒162-0052
東京都新宿区戸山1-24-1
早稲田大学文学部浦野研究室内
神奈川事務所　〒214-8580
神奈川県川崎市多摩区東三田２丁目1-1
専修大学人間科学部部大矢根研究室内
e-mail　m-comi@bj.wakwak.com
URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/